３．ヒアリング調査個票（活動主体ベース）

＃１「おしゃべり農園」（栃木県那須烏山市）

１．概要

運営主体	ワンチーム落合		
所在地 （基礎自治体）	栃木県那須烏山市	人口規模* （基礎自治体）	25,055 人(R4.3.1 現在)
（活動範囲）	那須烏山市落合地区	（活動範囲）	112 人（R4.3.1 現在）
活動展開の範囲	平素の活動は向田圏域落合地区中心、イベント時は市内他地区の住民も参加		
活動拠点の種類	落合自治会館及び遊休農地（住民による無償貸与）		
活動開始年	2021（R3）年４月　交流イベント開始 ※2019（H31）年３月　地元説明会等開催 　2020（R2）年 12 月　キックオフイベント開催		
活動概要	・地元有志からなる「ワンチーム落合」による、支え合いの地域づくり、交流促進の取組として、遊休農地（畑）を活用した「おしゃべり農園」でのさまざまな農作物の植え付け・収穫イベントを実施。平時の活動は、落合地区住民を中心に、収穫等のイベント時には、子ども、若い世代を含め市内から多数の参加を得ている。 ・市の生活支援体制整備事業の一環であり、健康寿命の延伸、孤立防止、防災機能の向上を狙った支え合いの一環でもある。		
対応する地域課題	地域のつながりの希薄化、生活支援ニーズの増加、医療・介護ニーズの増加　など		

*人口出典：那須烏山市 WEB サイト「人口世帯集計」https://www.city.nasukarasuyama.lg.jp/page/page000233.html

２．活動の展開プロセス

■地域の状況と活動者の思い

・2018（H30）年 12 月、ワンチーム落合現代表の民生委員から社協に寄せられた「地元は自治会行事も少なく、老人クラブもないため、地域の人たちが集う場面がない。なにか、気軽に集まる機会を作ることはできないか？」という相談をきっかけに、地元有志「支え合おう地域づくり運営委員会」による検討が開始。

■社協生活支援コーディネーターの思い

・社協の生活支援コーディネーターは、推進中の生活支援体制整備事業への展開も念頭に、他の地区の事例紹介等をしつつ、地元での説明・協議の機会づくりを提案。

■那須烏山市の計画

・市も支え合いの推進体制づくりを進めており、ちょうど2018(H30)年度は推進体制の整備等を目標としていた。地域住民、社協、市の目的が一致する取組になる可能性があった。

※参考　小地域見守り推進活動

・もともと社協が全国的にやっていること。本市では 102 の自治会があり、全てに見守り活動や支えあい活動があるべきと考えていた。2005(H17)年に合併後、事業をすり合わせつつ自治会単位で活動を進めようとしていた。その中で、自治会長にも案内をしていた。

■活動体制づくり

＜運営メンバー集め＞

・2019（H31）年 3 月から 4 月にかけ、民生委員と自治会長が協議し、地域づくりに関する協議の場を設けることに。反応は上々で、運営メンバーを自治会の役員会で決めていくことになった。

・社協は、協議の場で支えあいの重要性について説明する際の資料を作成。組織づくりや要綱についても、自治会などで取り組んでいるものも参考に助言。進め方について一緒に検討した。

・同年 5 月から、運営メンバーの検討。

・メンバー選出にあたり、社協が把握していた「この方にはお話を通しておくとよい」と思われる地域のキーパーソンについて助言（例…元民生委員、隣の自治会でサロン活動を熱心にしている方など）。

・最終的には、各班長＋α(女性の協力者)に決定。女性協力者は民生委員から打診。

＜「支えあおう地域づくり運営委員会」の発足＞

・2019（R1）年６月、自治会役員・班長・民生委員・有志の人たちで支え合い地域づくりについて情報交換会を実施。市・社協より支え合いの必要性について説明。また、民生委員より「居場所構想」についての提案がなされ、了承を得る。今後、運営委員会において、組織体系や活動内容を検討することになった。

・もともと、まとまりのいい地域ということで近辺では有名な地域であったが、社協や市の助言がなければ、ここまでの活動はしていなかったと思う。

「何かできないか？」から始まったメンバー集め POINT

民生委員の「地域に気軽に集まれる場所があれば」という思いから、
活動にむけたメンバー集めを開始。
地域のキーパーソンの紹介、説明資料の作成など、社協がバックアップ。

■キックオフイベントの開催と振り返り→「ワンチーム落合」の誕生と活動内容の決定！

・2019（R1）年 12 月、運営委員会の協議を経て、自治会長の特技を生かした「ミニ門松づくり」イベントを開催。昔はどこの家も軒先に門松を作って置いていたが、今ではそうした家も少ない。年末が近かったこと、また自治会長が小さなものを作っていたので、「それをやろう」という経緯であった。

・当日は 30 人以上が参加。社協は取材を通じて広報。

・2020（R２）年 1 月、イベントの振り返りを通じて、運営委員会を、多世代交流の場づくりを目的とした団体「ワンチーム落合」として組織化。

・イベントの振り返りの中で、「みんなで何かやりたいね」という話に。遊休農地が地区のあちこちにあることから、「農作物を作り、よいものができたら売ろう！」ということが決まった。

■活動拠点（農地）の確保

・2020（R2）年 1 月、地区の中心部にある 10 アールほどの農地を無償で借り受け。

・当時の活動代表者には「みんなが集まりやすい中心部で活動したい」思いがあった。また、どこに遊休農地があって何が作られているかはだいたい理解していた。みんなでわいわいしても迷惑にならないところにあり、野菜作りにうってつけの土地であったため、所有者に貸してもらえるよう依頼した。所有者は高齢のため現在は農地を使っておらず、無料で気持ちよく貸してくれた。

・時期を踏まえ、じゃがいもの種を植えたところ、よいじゃがいもが取れた。土地が広いので、「花いっぱい運動」にも参加することにして、花を植えるスペースも確保。また、さつまいもも間に合うという話だったので苗を植えた。それでもまだ土地が余っていることから、白菜や大根も作ることにした。

・同年 3 月、農地を「おしゃべり農園」と名付けた。

・社協はここまで組織化支援、活動資金づくり、情報発信ツールについて提案していたが、このころから団体が主体的に動き出してきたので、困りごとがあれば相談に乗っていた。

所有者の理解　活動拠点の確保 POINT

ワンチーム落合の当時の代表者が考えていた「地域の中心部」「わいわいしても迷惑にならないところ」という条件にぴったり当てはまる、野菜づくりにうってつけの土地を発見。前代表がお願いして、無料で借りることができた！

■活動資金や農作業に必要な物品の確保

＜活動資金の確保＞

・最初は手元に活動資金がない。自治会から助成をもらうことも考えたが、社協とも協議する中で、「何かしら実績をつくる中で、地域に還元している様子が見えた方がいいよね」という話になった。そこで、初年度は当時の活動代表者が費用を立て替え、実績ができてから助成金を申請することにした。

・2 年目からは、赤い羽根共同募金の助成金や社協の助成金などに申請し活用している。

・農作物は、自治会の会員に還元するほか、地域外の参加者には朝市などで買ってもらっている。売上で得た収入は、種や苗の購入などに充てている。

・2021（R3）年度は直売所の方が支援してくれた。細い大根が売れないからと処分しようとすると、「切り干し大根にすればいい」と助言をもらい、売ることができた。

■運営上の工夫　情報伝達の手段

・メンバーは LINE のグループで情報交換。会議日の調整や、じゃがいもを植える時期などについて協議している。年代の若い女性が中心だったが、今はメンバーみんなで LINE を活用している。

■情報発信、社協がねらう他地域への展開

・2020（R2）年 1 月より、「ワンチーム落合通信」を発行、facebook ページを開設。

・ワンチーム落合通信では、活動・イベントの情報発信、募集をする。比較的若いメンバーが作成し、自治会の回覧板などで配布。

・facebook ページを見て、地域外の親子連れが参加してくれることも。3～4 名だが、場が明るくなる。

・ワンチーム落合の場合、農地がスムーズに借りられたという特徴がある。これと全く同じことを他地域でで

きるわけではないが、こうした見守りと居場所を一体的に提供する新しいつながり、生きがいの場を創出する意味で、社協がワンチーム落合の活動紹介動画を 2 本作成。立ち上げから今に至るまでの経緯や思いなどを紹介するものになっている。

地域課題を地域で解決するノウハウの横展開に向けて POINT

落合地区と他地区の課題は少しずつ異なる。それでも、
地域の課題を地域の人たちが合意形成しながら解決していくという動きを
展開する意味で、社協がワンチーム落合の活動紹介動画を作成。

■市内の他団体との交流

・2020（R2）年 4 月から翌年 12 月まで、市内他団体と交流行事を開催。
①じゃがいも種植え、収穫祭　②さつまいも苗植え、収穫祭　③ミニ門松づくり体験
④こんにゃく作り体験

・交流行事の開催にあたり、市健康福祉課、市社会福祉協議会、栃木県共同募金会と連携。また、子育て関係団体の野うさぎくらぶ、がじゅまる、子結び団と連携。那須烏山市心身障害児者父母の会は、親御さんが落合地区におられたので、会とも自然な形で連携することになった。社協の生活支援コーディネーターが調整している。落合地区には子どもが少ないため、意識的に子育て関係団体との連携を図った。

3．今後に向けて

（1）ワンチーム落合として

・農作物の売り上げによって、収益も出始めている。今後、少しずつでも農地の所有者にお礼ができれば、ということを総会で協議している。

・直売所から「細い大根は切り干し大根にすればよい」と助言を受けたこともあり、今後は加工品づくりにも取り組んでいきたいと考えている。

（2）社協として今後ワンチーム落合に期待すること

・市内では自治会館を活用したサロン等が活発に行われているが、男性をはじめサロン等に行かない人にも、地域とのつながりが必要な人、つながりを求めている人は多くいると思う。おしゃべり農園では、地域の多世代が自然につながり、様々な役割が持てる空間ができつつある。社協として、ワンチーム落合が培ったノウハウや想い等を、市内の他地域にも波及していくことが「誰もが暮らしやすい地域」につながると考える。引き続き後方支援(組織化づくり、広報等)を行っていく予定。

活動団体の情報	ワンチーム落合 SNS　Facebook 【連絡先】那須烏山市社会福祉協議会烏山支所 TEL　0287-84-1294 視察の受け入れ：可